

知事との県民対話集会（南相木村）概要

- ・開催日時 令和5年1月17日（火） 午後5時30分から午後7時まで
- ・会場 南相木村公民館 からまつホール
- ・参加者 県民40名、中島南相木村長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
- ・テーマ 将来に向けた村づくり～持続可能な1000人の村の再生をめざして～

・主な発言（要旨）

【参加者】

・母は川上から南相木に嫁いできた。そのときは山道を越えて来たが、帰るのが大変とのことであった。その後馬越峠の道路が開通したが、10数年前からトンネルができたらいという話が出ている。生活だけでなく、観光、災害の時のことを考えても必要である。

【参加者】

・南相木村と隣接町村の間にトンネルがないのが川上村との間。トンネルが開くことで人流が活発になる。

【知事】

・私が直ちにやるとここで約束はできないが、道路整備も基幹道路、災害改良、地域間連携等と目的がそれぞれある。この地域は小さな町村が多く、人口減少の中で地域の発展を考えていくときに、どうやって連携していくか、そのためのインフラはどうしていくかは重要な課題であると思う。考えさせてもらいたい。

【参加者】

・小規模自治体の保育士確保に対する支援をお願いしたい。小規模自治体は、保育士の求人活動に十分な人員、予算を割くことが難しい。県において県内や近隣県、首都圏の学校等とのネットワークを強化し、それを活かして市町村が魅力ある保育環境をPRしてマッチングが積極的に行われればよいと思う。

・保育・教育分野にビジネスで貢献したいという企業は潜在的には多数存在している。県でも民間企業や地域のチャレンジを後押しする様々な支援をしているが、保育や教育に特化した枠組みでの支援は見当たらない。保育・教育に特化したビジネス支援の検討をお願いしたい。

【知事】

・民間の保育・教育ビジネスを応援するのはよい話。佐久地域は教育の先進地域になってきており、民間の取組が進んでいるので、そういう取組を長野県の中に導入するというのは重要な話であるのでしっかり考えたい。

・保育士の確保について、問題意識は同じ。市町村と県で人材の共同確保の検討を始めている。

・先日、保育士や保護者の方とお話する中で、ある保護者から「地域には子育てしたい人がたくさんいるのに、どうしてそういう人たちが保育ができないのか」という発言があった。こうした意見は極めて重要だと思っている。今は国が決めた制度で保育が行われているが、地域の人たちが柔軟に支え合う仕組みにはできないのかと思っている。小さな町村の実情に対応した独自の制度を考えられるといい。

【参加者】

・結婚問題について。山奥で不便だという村のイメージを払拭する必要がある。南・北相木村は佐久市などから見たら山深く、遠いというイメージがある。住めば素敵なところだが、来るにはハードルが高くなっている。中部横断自動車道が通ってだいぶ環境が変わったが、せめて小海まで開通すればありがたい。

・国や県、企業などの施設があれば人が集まり、雇用が生まれる。南相木村が関わるができる施設や長野県で事業展開したい企業があったときに南相木を紹介してもらいたい。

【参加者】

・県も推進している結婚マッチングアプリは、1000人が登録されている。そのうち7割が男性。南相木村の人はゼロである。

・登録に当たって役場で独身の証明をしなければならず、もう少し気軽に登録できるようにしてほしいという意見がある。独身証明について女性は抵抗を感じる。

【知事】

・結婚、子育て支援は県としても重要な課題であると認識している。次期総合計画のプロジェクトでも「女性や若者から選ばれる県づくり」として結婚、子育て支援の更なる強化をしていきたい。結婚支援に道路が重要という点は今日改めて認識したので、国への要望に行く際もそのように言っていきたいと思う。中部横断自動車道は一日も早く全線開通できるよう取り組んでいく。

・村のイメージアップは私ができるなら皆さんもできると思う。南相木の良さは皆さんが一番よく分かっていると思う。

・これまでの集会では女性の参加者がいないところもあったが、今日の会場は女性の参加者がとても多い。女性のパワーがある村などを売りにできないか。

・人口減少が進む中で、県は県有施設を縮小させようとしている。南相木村に限らず、施設の必要度が高いなどの理由がないと厳しい。地域の方たちの利用が中心の施設は、できれば市町村にお願いしたいと思っている。民間の施設については、民間企業と村がコラボレーションするのを県が手伝うというようなことはあると思う。

・マッチングアプリを登録しやすくするというを多くの相談員の方々が思っているのであれば、声を上げてもらいたいと思う。行政が関わっているからには安心できるようにする必要がある一方で、その点の意識が強すぎるとマッチングできる対象者が増えないということになる。宿題として引き取らせていただきたい。

【参加者】

・高校再編について、報道では佐久新校の用地は野沢北高にほぼ決まったとのことであるが、賛成できない。中込駅から野沢北高までは歩道が狭く、通学の自転車が車道にはみ出ている、こうした状態が毎日30分程度続く。これからつくる学校について、すでに分かっている危険は取り除くのが心ある行政であると思う。何よりも生徒の安全を優先すべき。

・同じく報道では駒場公園南の県有地が候補になったとのことであるが、適地と考える。あの場所は県有地のため、知事が申し出れば返還されるのではないか。土地返還を実現して新校用地に活用してほしい。

【知事】

・教育委員会が決める話なので私が口出しをしすぎてもいけないが、問題点があると感じたので、教育委員会に伝え、ベストな選択なのか確認したい。校地については、すべての人が満足する結論が得られるのは難しいが、県民の思いと教育委員会の思いがずれているときがある。

・教育については地域の将来像と密接に関連するので、首長がもっと権限を持つようにすべきと考えている。教育行政のあり方は本気で変えないといけない。様々な課題があるのに首長と教育委員会で権限が分かれているのは問題であると思う。

・高校再編は、単にくっつけるだけではない、高校改革自体をもっとしっかり考えろと教育委員会には言っている。皆さんが思っていることをどんどん言うてもらいたいことが大事である。

【参加者】

- ・女性と若者世代が活躍できる社会の仕組みについて。日本が抱えているたくさんの課題の中で上位にくるのが人口問題、中でも深刻かつ直ちに対応すべきなのが少子高齢化である。
- ・村には希望（＝明日）という名前の村づくりに取り組んでほしい。知事には村が再生するまでベストパートナーとして希望のもてる村づくりを支援してほしい。

【知事】

- ・昨年の選挙の際、女性や若者から選ばれる県づくりを進めたいという話をしたが、子どもの数が減ってきているのは危機的な状況であると思っている。結婚したいのにできない人たちや子どもがほしいのに経済的な問題や保育の問題で躊躇している若い世代を応援しないとイケない。
- ・どうやって若い世代や女性の活躍を応援するかを社会全体で考えないと、産業も地域も成り立たない。次期総合計画ではこの問題にしっかり焦点を当てて取り組みたい。制度や仕組みをつくっても社会が変わらないと子育てしやすくはならないと思う。具体的な取組を進めていくので協力してほしい。

【参加者】

- ・この村に来て50年になるが、魅力的で不満がない。村は住みやすく、皆さんが元気を出して希望をもってやっていけばいい日が来ると思う。

【知事】

- ・こんなに女性がたくさん集まったのは初めて。南相木村の特色としていただければと思う。

【参加者】

- ・太陽光発電について、年金生活者には投資するお金がない。設置すれば収入が確保できる。

【知事】

- ・北相木村は全世帯の6割に設置されていると聞いた。NP0の人たちが進めている「相乗りくん」の仕組みを全県に広めたいと考えている。
- ・信州屋根ソーラーポテンシャルマップをインターネットで公開している。ぜひ見ていただいて協力してもらえればありがたい。